



南 賢治 議員

都市計画道路の東西線について

都市計画道路における東西線の路線計画に対する進捗状況をみますと、なかなか計画通りには整備が進まない現状がある。

交通渋滞の解消および安全で利便性の高い道路整備による交通の円滑化を図り、都市機能の向上を図ることで、住民の皆さんの住環境のより一層の向上と安全の確保のための整備について質問する。

Q 古場武豊線の上ゲ踏切交差点ですが、道路高架ではなく名鉄線路上を上げ駅から知多武豊駅までの間を高架化するとしたら、どのような基準があるか。

A 建 一連続立体交差化に関する要綱」が定められている。

Q 仮に、その基準をクリアして上げ駅から知多武豊駅までの約1kmの高架を考えたとするなら、どのようなリスクが考えられるか。

A 建 工事中の仮線用地確保の必要や住環境面において、日照問題・電波障害などが考えられる。

また、併せて事業費や事業期間についても、膨大な費用と長い年月が必要になると考える。

Q 武豊港線ですが、みゆき通り東、丁字交差点から里中交差点へ抜ける町道金下・里中第1号線の一方通行解除を伴う整備については。

A 建 「味の蔵たけとよ」や建設予定である温水プールを結ぶ重要な路線である。丁字交差点の改良に合わせ、堀川に架かる橋梁の検討など、関係機関と協議・調整を行い、事業が円滑に進むよう、鋭意努力していく。



▲朝夕の混雑が厳しい上げ踏切



甲斐百合子 議員

今後のごみ減量施策を問う!

「知多南部広域環境センター」供用開始までに、平成26年度時と比べて、1000tのごみ減量が必要。現在460t減量。あと2年3カ月。

Q 今後のごみ減量化スケジュールは、どうなっていますか。

A 経 一次目標である今年度は、町民アンケートの結果も踏まえて、中間評価を実施。おおむね計画どおりに進捗しているものの、地域差、可燃ごみの減量、紙類の資源化など、個別の課題が残されている。今後は、「ごみ減量化検討会議」の中で、様々な意見をつかがい、本年度中に具体的な実施計画を、策定していく。

Q そもそも、なぜ1000tの減量が必要ですか。

A 経 国の基準によるごみ処理場の規模に合わせ、各構成市町の協議により決定し、各市町がごみ減量に取り組んでいる。

Q 生ごみの分別や、「キエーロ」

実施のお考えは。

A 経 「燃やさなければならぬごみ」の4分の1が生ごみであり、有効な施策だが、収集など課題も多い。今後の調査研究にしたい。「キエーロ」は、土の中のバクテリアを利用して生ごみを分解する生ごみ減容器を本町として実施可能かどうか、検討していきたい。

Q 積極的に取り組む区や個人が励める施策を検討する必要があるのでは。

A 経 今後、本町としてできることがあれば、実施に向けて前向きに検討していく。



▲「キエーロ」利用の様子



石原 寿朗 議員

歩行者のさらなる安全確保を

交通事故を無くすため、町には道路整備のさらなる改善を求める

Q 事故後の検証や犯罪抑止のためにも、通学路などに防犯カメラの設置を推進する必要があるのではないかと。

A 町長 現在、公共施設や駅周辺の駐輪場を対象に、順次整備を進めている。来年度以降は、関係部署と連携して、小中学生が多く往来する場所や車両通行量の多い交差点を中心に、適切な場所を検討して防犯カメラの設置を進めていく。

Q 防犯灯の設置・維持管理を地元区へ委託しているが、通勤、通学でその場所を歩く当該区民以外から「暗い」という声もある。必要と思われる箇所の新設や照度改善は、町が積極的に関与すべきでは。



▲ 安全を見守る防犯カメラ

A 総 町民から出される「道路が暗い」などの情報は、防災交通課も窓口となり、当該地元区などと調整して改善を図っていく。

Q 国や県のガイドラインでは、横断歩道は通常の歩道や路側帯よりも明るい照度が望ましい、としているが、本町では対応できていない箇所が多いのではないかと。

A 総 町内には200を超える横断歩道があり、樹木の繁茂、周辺の影響のほか、設置されている照明機器の照度自体が低い箇所もある。機器交換の際などを利用して、横断歩道の十分な照度確保を行っていく。



石川 義治 議員

「誰ひとり取り残さない」理念

SDGs（持続可能な開発目標）とは、2030年までの国際目標であり、17のゴールと169のターゲットが掲げられています。

地方創生の実現のために

Q 武豊町では、SDGsにどのような見解をもっているのか。

A 企 町で行われている施策の多くは、SDGsの掲げる17のゴールに繋がっていると考えている。

Q 現在、SDGsの理念を意識して進めている施策は。

A 企 SDGsの理念と方向性が同じ施策は多くあると考えている。

Q 職員に、SDGsの認知度を上げていくことへの見解は。

A 企 更なる知識の向上に努める必要があると考えている。

Q 「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」加入への見解は。

A 参加も視野に入れていく。

Q 愛知県がSDGs未来都市に選定されたことによる影響は。

A 企 県の施策がSDGsに関連付けられ、職員の更なる理解が必要になってくると考えている。

Q 町としてのSDGsの推進・取り組みについての見解は。

A 町長 町の施策をSDGsのゴールと関連付け、施策体系を構築していく。

具体的に、次期総合計画では、SDGsのゴールを総合計画の基本計画に掲げる施策に関連付けをし、そのアイコンを掲げること、各種の個別計画との連携を図ることを検討している。





久野 勇 議員

防災(豪雨)対策について

台風やゲリラ豪雨・記録的短時間豪雨に対する本町の対策は

Q 雨水排水計画の策定と進捗は。

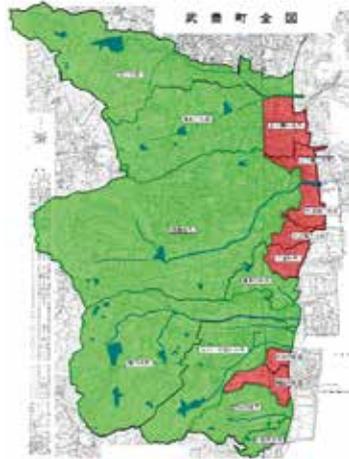
A 建 平成12年9月に発生した東海豪雨による被害を受け、同規模の大雨に対応できるよう、雨水排水計画を策定・改定作業を行い平成27年度から10年計画で施設整備を実施中。

Q 計画は、どれ位の雨量に対応できるものとするのか。

A 建 東海豪雨の時間最大降雨量は65・5mmであった。計画では10年に一度降る大雨の時間降雨量68・6mmに対応した施設能力を目標としている。

Q 本町における雨水調整池・ため池の整備は。

A 建 可能なところから雨水貯留施設の整備を行っている。また、ため池を活用し「鹿狩池」「六貫山新池」には、雨水調整能力を持たせた構造としている。今後は、石田川上流に調整池、既存の中山



▲排水体系図

新池の雨水調整能力の強化を計画。
Q 災害ごみについてはどのような計画か。

A 町長 災害の種類により廃棄物の発生量を推測し、仮置き場の面積や分別基準を定め、迅速に処理できるよう計画している。現在は、運動公園を仮置き場に想定している。

Q 計画以上の廃棄物が発生した場合はどうなるか。

A 経 災害時は想定外の事態も考え、複数の災害廃棄物置場の候補地を選定する必要があるため、公有地や必要に応じ民有地も考えている。



本村 強 議員

新しい施設に、ネーミングライツを前向きに検討

屋内温水プール建設、知多武豊駅東整備、中央公園用地購入など大型プロジェクトの推進のためには、多大な費用がかかる。住んでよかったと言っていただけの街をつくるには、少しでも税収を増やし、税収以外の確保策を探ることは喫緊の課題である。

ネーミングライツ(公共施設の命名権)の導入を

Q 本町におけるネーミングライツ導入の考えは。

A 町長 ネーミングライツは、公共施設の所有権、運営方法はそのままにして、企業名や商品名を付した「愛称」を命名する権利を企業に与えて、契約金を町の財源として確保する広告事業の一つである。本町においては、現在、整備を進めている「屋内温水プール」、「武豊中央公園」など新たな施設について前向きな検討をし、企業への働きかけをしていく。

Q 知多市、大府市が平成30年度から導入しているが、その実績は。

A 企 知多市は「市民体育館」や「運動公園陸上競技場」など、大府市では「市民体育館」、「勤労文化会館」や「歩道橋」などにも契約をしている。「メディアス体育館ちた」、「メディアス体育館おおぶ」と命名され、複数年契約で年間100万円とされている。

Q 町内の既存の公共施設で、池の上の図書館やエコステーション、町民会館、体育館、運動公園など素晴らしい施設についても検討を。

A 町長 企業としてのPR価値がどうかなど課題もあるが、選択肢の一つである。



▲池の上に建つ図書館



櫻井 雅美 議員

子育て世代包括支援センターに 多様な専門職を！

子育て世代包括支援センター について

- Q** 基本型・母子保健型それぞれ新規に配置される職員の経歴は。
- A** 福 基本型に保育士、母子保健型に保健師を予定している。
- Q** 現在、不在であり、専門職として必要な助産師・児童福祉士の配置はしないのか。
- A** 福 専門職が必要だとは認識しているが、積極的には探していない。今後考えていきたい。
- Q** 2022年までに子ども家庭総合支援拠点事業をスタートすると思いますが、専門職確保は。
- A** 福 人材確保に努めたい。
- Q** 現場で使命感をもって働いている職員が疲弊し、休職に追い込まれることがないよう、多様な専門的観点から危機的判断や見立てができるような組織マネジメントが必要だがどう考えているか。
- A** 福 職員が大変なことは承知している。今後考えていきたい。

放課後の子どもの安全な居場所

- Q** この時期になると、早く暗くなり、遠くから通っている児童が一人で帰るのは危険が伴います。特に緑丘小エリアには児童館もなく、大人の目があり、安心して過ごせる場所がありませんが対応は。
- A** 福 総合計画の地区別懇談会でもお話がありました。地域の方の協力をいただき、公民館などを利用することも検討していきたい。



青木 信哉 議員

通学路の安全対策の進捗状況は

通学路において6月の緊急点検の結果どのような対策を行うのか

- Q** 危険箇所の対策は。
- A** 町長 建 対策が必要な19カ所のうち、町道交差点5カ所は防護柵を設置の予定である。(一部境界ブロック撤去後)
- Q** 国の補助制度の利用は。
- A** 建 11月中旬に、園児などの移動経路における交通安全確保に対する交付金制度への申請を対象となる3カ所について行った。

- Q** 他の交差点についての対策は。
- A** 副町長 国道・県道の11カ所については県へ要望をあげている。場合によっては町が承認工事という形で進めていく。
- Q** 保育園における対策は。



▲ 白山信号交差点

- A** 建 対策済みのラバーポール設置以外に道路外側線の引き直しやガードパイプの設置をしていく。
- Q** キッズ・ゾーン設定の考えは。
- A** 福 「厚生労働省交通安全業務計画」の改訂を見据えて設定については調査研究を進めていく。

教育環境のICT化整備

- Q** 法律によりICT推進計画を策定する事(努力義務)とされたが、武豊町の考えは。
- A** 教 財政的な面も見据えた中で子どもたちにとって最大限の効果が得られる方法を検討していく。
- A** 町長 11月の東京出張時、文部科学省の方より国際的にICT化が遅れている中、国はまずは5年生を対象にICT化を進め、その後5年間をかけて全小中学生と学校への整備を進めていく考えを聞いた。本町もしっかりと対応をしていく。